

# 令和5年度川口市バリアフリー基本構想推進協議会 会議録

日 時 令和5年11月21日(火) 開会 午後3時30分  
閉会 午後4時15分

会 場 並木公民館 視聴覚室

出席者 委 員 ◎秋山 哲男 齋藤 光男 藤田 昭一  
吉田 優 千島 達雄 小田原 道弥  
片山 理 山川 さおり  
◎委員長

事務局 技監兼都市計画部長 川田 昌樹  
都市計画部理事兼都市計画課長 高橋 隆一  
都市計画課計画推進係長 片山 理恵

## 1 開 会

## 2 報 告

令和4年度川口市バリアフリー基本構想推進協議会での指摘事項について  
(事務局より説明)

## 3 意見交換

西川口駅周辺のまち歩きについて

・委員長

令和4年度川口市バリアフリー基本構想推進協議会での指摘事項及び西川口駅周辺のまち歩きについて、各委員からご意見をいただきたい。

・委員

川口駅とは異なり、西川口駅は昔からあまり変わっていないという印象を受けた。車椅子では使いづらい場所が多い。まず歩道ブロックの材質だが、溝が多いブロックがあり、車椅子では乗り心地が悪く、振動が頭に響くように感じた。

また、駅を出てからの行先案内がどこにあるのか全く分からなかった。西川口駅は近隣にある大きな病院の最寄り駅になるが、子どもやお年寄りが病院に行くにも西口東口どちらに降りればいいのか分からないのではないかと感じた。子どもやお年寄りでも分かりやすいサインを、もっと改札や駅周辺に掲示してあると良いと感じた。

・委員

街が汚く、障害者に優しくないという部分が非常に目立った。西川口駅はSKI Pシティに一番近く、将来的にNHKが来て、商工団体などの経済関係者がSKI Pシティに集まると人の動きが川口駅から西川口駅にシフトすることが予想されるが、川口市として今後西川口駅をどのようにしていくのか、考えをお聞きしたい。

また、東口の鳩ヶ谷方面に行くバスについて、駅の正面からはバス停に誘導する視覚障害者誘導用ブロックがあるが、バス停への近道となる場所には全く敷設されておらず、そういった面での配慮が必要ではないかと感じた。

・委員

西川口駅は、西口は風俗営業許可が下りる地域、東口はオートレース場が有り、開催日にはたくさんのかたが利用されるなど、東京から遊びに来る場所であると感じる。オートレース場の入場料などは川口市の一つの財源になっているが、これからは遊び場というより東京に近い川口、住み良い川口というところから考えていく必要がある。西口の風俗営業については今後検討していくとして、東口については住宅街であり、安心安全な住み良い街にしていくため、もう少し警察などのご協力が必要になると思う。安心安全な街づくりのためには、西川口が率先して綺麗な街になっていくと良いのではないかと感じた。綺麗な街は、イコール安心に繋がると思うので、綺麗な街づくりを市民のかたと一緒に考えていき、行政もそれに付随して協働的に構築していけば良い街づくりになると思う。

・委員

川口市バリアフリー基本構想にある特定事業計画では、500mから1000mのエリアが記載されているが、視覚障害者誘導用ブロックが500mどころか100m程度までしか敷設されていない。駅近くの金融機関前にある交差点を渡る前までは敷設されているが、交差点を渡ると敷設されておらず、これから整備される場所なのかと思いながら歩いた。特定事業計画がきちんと機能するよう希望する。

・委員長

特定事業計画の部分で、視覚障害者誘導用ブロックが敷設されていないということをご指摘いただいた。バリアフリー基本構想の中で、道路特定事業の区間として指定された場所については、国道であれば国に段差解消やブロック整備などを要望できる。県道であれば、県に対して要望できる。市は、市道が指定された場合には道路担当部局が整備しなければならない。これに指定することが、バリアフリーを進める第一歩となるものであり、これを道路特定事業計画と呼ぶ。

もう一つとして、公共交通特定事業というものがある。これは、川口市の駅にエレベーターが無いという場合には、優先的にエレベーターを整備しなければならないといったものである。そのような意味において、特定事業はかなり重要性を持っており、計画をしたからにはそれをやらなければならないという義務が生じるため、今後事業を進めるようお願いしたい。

・委員

台湾との比較だが、道路や歩道を見比べると海外の歩道は非常に段差が高く、日本の歩道の倍ぐらいの高さがある。その点、日本では段差はあるが低いため、楽に感じる。車椅子でも少し持ち上げれば歩道に入ることができる。海外の場合には不可能であり、道路の構造が日本と海外では異なっている。

日本は川の治水が進んでおり、道路に水が出ることは少ないが、海外は少し雨が降ると一気に水かさが増してしまうため、今日まち歩きをしていて、その辺りの違いもあるように感じた。

他に感じた点としては、歩道の舗装が痛んでおり、足の不自由なかたには非常に危険だと感じる。杖を突いているかたは、杖が刺さってしまうと感じた。

気になった点は以上で、それ以外については、川口はそれなりに力を入れていると感じた。

・委員長

恐らく台湾は、歩道の高さが20cm程度ある。日本でも高いところがあり、

国道であれば昔は20cmであったが、基準を変え15cmにしている。基準は15cmにしたが、歩道の高さを15cmのままにするケースと、5cmか10cmにするケース、車道と同じ高さにするケースの三つを最近では選べるようになってきている。川口のケースは、5cmか10cmの歩道の高さに、街渠ブロックは20cmという選択をしたということであろう。最近ではバリアフリー化する際に、15cmは選ばないほうが良いと感じる。ただ、車道から自動車が歩行空間に入ってくることを防ぐために、街渠ブロックを設置するのが良いのか、ガードパイプやガードレールといったものを設置するのが良いのかは悩ましいところであり、その選択は状況により上手く行くと良いと思う。

ガードレールの発祥は、海外で自動車が崖から転落しないように作られたものである。このため、歩行者のためのものではなく、自動車を崖から転落させないためのものであると言える。世田谷区では、30年ほど前にガードパイプというものを作り、そのパイプに座れるようにしたり、デザイン的にも綺麗なものを作った記憶がある。

これから川口市は、住み良い街という意味でデザインの核を上げていくことをぜひおすすめしたい。良いデザインをすれば、人々もここに住んで良かったと思えるような場所になると思うので、ぜひお願いしたい。

#### ・委員

西川口駅前には歩道と車道の段差が少なく、ベビーカーでも非常に通りやすいと感じた。ただ、歩道に上がるとブロックの欠けであったり、ブロックの細かさなどによりベビーカーが常に揺れ続けていたので、床面が平坦になれば歩きやすくなると感じた。

歩道に関しては、花壇が歩道にせり出して来ており、花壇の角が直角である点が少し怖いと感じた。ベビーカーは幅があるため、対向からベビーカーが来てすれ違う場合に、避けた先の直角の花壇に足が引っ掛かりそうだと感じた。花壇の位置を現状のままキープするのであれば、角を削っていただくか、なるべく車道に沿って細長い形状にするなど、ぶつかりにくいように配慮すると、歩行者も歩きやすいのではないかと感じた。

また、自転車の多さ、路上駐輪の多さが気になった。強風が吹くと危険であり、歩道が歩きづらいとも感じた。駐輪場の整備を行うとともに駐輪場に停めていただくよう促すなど、ソフト面での整備も併せて行っていただきたい。

他には、西川口のイメージ的に子育て世代は住環境として選びにくい街であると感じる。実際に歩いてみて感じたこととして、JRの敷地のため難しいとは思いますが、西川口駅を向かって見た時の、駅の下部空間の暗さが気になる。街が明るくなければ、街の綺麗さという面や、この街を選ぼうという気になりづらい部

分がある。そういった点を含め、大きな改修になってしまうとは思いますが、街のイメージアップを目指していただければ、地価は川口駅周辺などより安いので、選びやすく住みやすい街になっていくのではないかと思います。

#### ・委員長

バリアフリーの部分で、ベビーカーを使用するかたが20年前ぐらいまでは鉄道に乗らなかった。鉄道にエレベーターを設置し、バリアフリー化してからは自動車ではなく公共交通で移動するようになった。ベビーカーを使用するかたが公共交通で移動するということは道路も使うし、様々な形で都市空間を使い尽くし始めた。これが現在の状況であり、車椅子だけでなくベビーカーに合った都市の作りがもう一方で必要となる。

単に段差解消や視覚障害者誘導用ブロックを敷設することだけではなく、ベビーカーを使用するかたの通行も考えることが大事だというご指摘を委員からいただいた。花壇の作りなども、幅員2mの歩道では花壇の設置はかなり厳しいだろうと思う。2m50cmから3mあれば少しは可能かもしれないが、2mの場合は街路樹も厳しいと思う。駅周辺300m程度の区間は人の通行が非常に多く、その場所で緑を作るためには5m程度の部分がないと難しい。2mの場合であれば、緑は諦めることも考えていいのではないかと、委員のご指摘を聞いて感じた。

また、自転車問題は、日本はかなり遅れている。これからキックボードなど多様な交通手段が出てくる。例えば、電動車椅子WHILL（ウィル）は自動で運転するもので、羽田空港で運行している。しかし、様々なものの受け入れ態勢が道路側で出来ておらず、難しい問題がある。

他に、住環境として選ばないような街ではだめだ、とのご意見をいただいた。暗い街のイメージをどのようにすれば明るく出来るかということでは、駅というものは都市の顔であるから、駅及びその周辺の街づくりはデザインをかなり高品質なものにしてもよいぐらいだと考えており、ぜひその部分は頑張っていたきたい。国の調査で小田急世田谷代田駅を見た時に、非常にレベルが高いものが出来たと感じた。同時にJR千駄ヶ谷駅も相当レベルの高い駅が出来たと感じる。良い見本となる駅が東京にもたくさんあるので、ぜひ見ていただきたい。

また、子育てのことも議論の視野に入れて考えていただきたい。この部分は基準などが無く、考え出して作っていかねばならないので少し大変かもしれないが、ぜひ委員のご意見も尊重して考えていただきたいと思う。

#### ・委員

西川口駅周辺は、障害者にとって、とても利用しにくい駅であると思う。感じ

たこととして、段差が多すぎると思う。障害者にとって、とても危険な場所が多いと感じた。

また、案内板が足りないと感じる。街の周辺の案内板が、通常は駅のそばには設置されていると思うが、西川口駅の場合は西口東口ともに全く無かった。どなたかに尋ねないと分からない状況にあるが、耳の不自由な人にとっては目で見て確認できないのは不便であると思う。案内板もそうだが、電光掲示板などのお知らせがあってもいいのではと思ったが、こちらも設置されておらず、不便を感じた。

エレベーターについても、場所が分かりにくかった。西口の場合は、角の方のへこんだような場所に設置されており、少し見ただけでは分からなかった。はっきりと案内を表示していただきたいと思う。

他に、通路が狭く、災害の時に非常に困るのではないかと感じた。駅周辺の通路は柱が多くあり、自動販売機なども置かれていて通路が非常に狭いと思う。災害が起きた際に、避難路はどうするのかと心配になった。

また、例えば鳩ヶ谷方面に行くバスなど、東口のバス停が駅から離れている。そのバス停がどこかが分かりづらく、案内が無かった。バス停もやはりどなたかに尋ねないと分からない状況があり、そのような点の配慮が足りないと感じる。

駅の周辺では、花壇は綺麗だがその周りがとても汚れていて不潔に感じた。美化の面から言っても、不潔な感じが強かった。

駅の広場についてだが、広場が狭く、その狭いロータリーに車が入ってくるため、障害者にとっては危険が多いと感じた。街づくりとの関係で、駅づくりにもっと力を入れていただきたい。

#### ・委員長

駅前広場については、広場空間と交通空間、緑空間の三つ程度を作ることが普通だが、その空間のバランスが取れているか、乗降客に対して、バス、タクシー、その他の交通手段の必要な面積があるかどうかなど、そういった面でのチェックを一回行ったほうがよいのではないか。駅前広場の設計をする際には、それらを行った上で設計するが、そのことによりその地域に合わせた駅の作りになると思う。まず最初に手を付けるのは、交通結節点としての機能は最低限必要なため、駅前広場をきちんと整備した上で広場的空間をどこまで取れるのか、緑をどこまで取れるのかといった計算が必要になる。

私が偶々駅前広場の設計に携わった沼津駅は、ユニバーサルデザインの設計をした。そこはとても綺麗で、駅はバス側と乗用車側、バスとタクシーと乗用車側に分けたツイン型で作っている。土木学会のデザイン賞をいただき、その時に他のデザインの発表を見ていたが、色々な場面でのデザインがとても見事なも

のだった。デザインを頑張ると、皆が元気になる。沼津駅は、現在も広々として使いやすく使われている。川口も、西川口の住みやすさを支えるような、良い駅前広場をきちんと行政側が作ると市民は住んで良かったと、評価が良くなることがある。

フランスのモンペリエという都市は、交通が今は65歳以上と18歳までは無料だが、今後は全ての市民を無料にすることだ。無料にして問題ないのかと思ったが、それによって人口が増え、2%の交通税があるので問題ないということだった。交通税は、パリのように2.8%にしようかという話もその地域では出ているようだ。

パリではオリンピックの準備をしているが、日本のレガシーはあまり影響がないということが分かった。例えば、アクアティクスセンターなどの事前事後の交通量を測定したところ、ほとんど増えておらず、歌舞伎町は増えていた。雷門の前も増えており、レガシーではなく観光によって増えていた。ところが、パリの郊外にある93地区というあまり治安が良くない場所があるが、そこをパリではオリンピックの会場にして底上げしよう、良くしようということをやろうとしている。

ロンドンでも同様に、スタンフォードはオリンピックのレガシーで街を良くするというを行っている。イギリスに留学している知人は、大学に通うのに一時間かかる場所に住んでいるとのこと、なぜスタンフォードに住まないかと尋ねると、家賃が高すぎて無理だと話していた。スタンフォードは、昔は工場が多く存在する街で疲弊したような印象であったが、オリンピックを開催して非常に良くなった。街にあるレストランに5軒ほど入ってみたところ、どこも非常に美味しく、オリンピック後にこんなに良くなったのかと感じた。ロンドンとパリは、今後良くなっていくと思う。

そういった点を考えると、良い街を作るとレベルが上がり、人が寄ってくるなと感じた。ぜひ西川口も良い街を作っていただきたい。

#### ・委員長

委員の皆さんから、一通りご意見をいただいた。西川口駅が寂しいので、もう少し綺麗にしていってほしい、住みやすくしたいということが一つ、二つ目は交通の面で、歩行空間が歩行者も自転車も錯綜しているので、こういった空間を整理して、道路も駅前広場も空間を分かりやすく作っていくことが必要であるというものであった。

また、電光掲示板が無いなど分かりにくい状況が多いため、見て分かる街にしてほしいというご意見もいただいた。

そのような中で、街をどのようなデザインにするとよいかデザイン会議のよ

うなものを開くといいのではないか。大勢でそれぞれが考える駅のデザインや問題点を出し合い、駅前広場で実際に見て意見を出せるような場を設けた上で計画を立てると、もっと良い街になると思う。ただし、その場合は市としては100億円程度の予算を用意する必要がある。

100億円というと、最近新しい球場が出来ているが、とても良い球場になっている。ここがなぜ良い球場になっているかという、これまでにあった他の球場とは違い、新しい球場はアルコール類を飲みながら野球が無くてもそこで楽しめる場所になっている。その周辺にも様々な施設が作られている。コンセプトは大事で、西川口駅も新しいコンセプトを取り入れて、こういったコンセプトでやってみませんかといった提案型のコンペティションを行い、そこで出た案を採択して駅周辺を変えていくということをぜひ行っていただきたいと思う。

#### ・委員

一つ補足意見がある。これは西川口駅だけの問題ではなく、川口駅を見た時にも感じたことだが、トイレの問題がある。トイレが改札内にはあるが、改札の外にトイレが無い。改札を出てからトイレに行きたくなったというような場合は、もう一度改札でお願いして入れてもらう方法や、近隣の店舗でトイレをお借りすることになる。普通は改札の外にもトイレがあるかと思うが、川口駅、西川口駅ともに改札の外にはトイレが無かった。スペースの問題もあり、作りたくても作れないといった事情もあるかもしれないが、この点についても、もう少し考えて街づくりをしていただきたい。

#### ・委員長

トイレは、他の自治体では力を入れて様々な場所に設置している。他の自治体の事例を参考に考えていただくとよいのではないかと思う。

本日、西川口駅周辺を見て、視覚障害者誘導用ブロックの敷設の仕方を少し整理して考えるべき場所が全面的にあると感じた。また、歩道と車道の段差が少ないため車椅子の移動に大きな問題は無いが、歩道の表面がざらざらしており、あまり良い作りではないという点が二つめの課題である。

三つ目の課題としては、エレベーターが分かりにくい場所に有り、設置場所をしっかりと考えなければならないというものである。

四つ目の課題は、全体的にバスの案内などが非常に小さなもので書かれていたり、普通は駅を降り立つと駅周辺500m程度を案内する地図があったり、駅から2~3kmの範囲で周辺を案内する地図が設置されているが、そういったものが無かったように思う。そのようなサインが設置されていれば、駅にいて自分がこれから向かう目的地の場所が確認できるので、そういったものを駅のコ



ンコースに設置するのか、駅前広場に近い道路に設置するのかといった検討もこれから必要になってくる。

その他、トイレの整備などの施設整備もあるが、まずは全体計画を検討し、色々と考えていっていただければと思う。ぜひ頑張っていたきたい。

他に意見等はないようなので、意見交換はこれで終了する。

本日の意見交換に対し礼を述べ、令和5年度川口市バリアフリー基本構想推進協議会を終了する。